



# 平成二十三年年度 定期総会開催

## 二松学舎大学 父母会報

平成5年5月10日創刊  
平成23年7月31日発行  
(第73号)

二松学舎大学父母会

(本部)東京都千代田区三番町6番地16  
(事務局)千葉県柏市大井2590  
〒277-8585 TEL 04(7191)8756

二松学舎大学柏事務局

題字は  
故 観山貞廣常吉先生書



平成二十三年六月十八日(土)午後一時三十分、九段校舎の四階四〇一教室において、平成二十三年年度二松学舎大学父母会定期総会が開催された。東日本大震災の影響により大学の学年暦の変更があり、例年より三週間ほど遅い開催となった。総会に先立ち、本学文学部・渡邊了好教授による「韓国はこんなところ」と題

した講演会が行われた。午後二時四十分、永松はるみ氏の司会により総会を開会、桐原利之会長、大学から渡辺和則学長、法人から大山徳高理事長がそれぞれ挨拶した後、國府田恭子議長により議事に入った。

第I号議案の平成二十二年度事業報告並びに決算は、審議の結果、原案どおり承認された。

第II号議案の平成二十三年度役員選出は、会長に篠塚義光氏、並びに会計監査に月永美世香氏と権平雅子氏が決定した。

第III号議案の平成二十三年度事業計画並びに予算が審議され、それぞれ原案どおり承認された。

議事終了後、平成二十二年度で役員を退任した桐原利之氏・幸田頼氏・渡辺良子氏の三名に渡辺学長から感謝状と記念品が贈呈され、総会は終了した。

午後四時から、会場を十三階ラウンジに移し、懇親会が開催された。



# ごあいさつ



学長 渡辺和則

いを申し上げます。

本学は震災の影響により、卒業式  
の中止、入学式の延期と中洲記念講  
堂での学科別実施、また授業開始日  
を一カ月遅らせるなどの対応を取り

も、同様の経済的支援を行うべく準  
備を進めております。これは大学と  
しての社会的使命だと考えておりま  
す。ご父母の皆様方にもご理解の程  
宜しくお願い致します。

さて、二松学舎大学は九段校舎で  
全学年の教育を行う九段集約計画を  
年次進行で実施してきております。  
平成二十四年度の入学者は全員が九  
段校舎で学び、そして平成二十五  
年度からは学生全員が九段校舎で学  
ぶこととなります。本学が九段キャン  
パスを中心とした都市型大学として  
発展する途は、全教員が密度の高い  
授業とゼミナルでの親身な指導を  
行い、眼前の学生が一步でも前進で  
きるように支援することにあります。  
この一点に全教職員の力を傾注して  
参りますので、更なるご理解とご支  
援をお願い致します。



理事長 大山徳高

安穩の夢を貪っていました。地球は  
かりでなく、宇宙そのものが変化し  
て止まないものであろうし、その不  
安定な地球の上に生活している人間  
は、常に危険と隣り合わせです。そ

に求めるか、国家的に多様な観点か  
らの検討を要します。  
一方で、被災者に対する支援活動  
が、大きな広がりを見せていること  
に、人としての温もりを感じ、昨今

## 「東日本大震災に想う」

暑中お伺い申し上げます。  
この度の大震災に遭われた方々には  
心よりお見舞い申し上げます。  
さて、私は、東日本大震災の被害  
の大きさに慄いています。無自覚に

の不安定は、文明といわれるものが  
発展し、大きくなればなるほど増す  
ものであることを教えられました。  
原発事故がその一つだろうと思いま  
す。利便性と安全性の妥協点をどこ

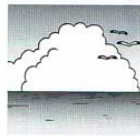
の荒廃した人間関係の有様の変化す  
ることを願っています。いずれにし  
ましても、自然に目を向け、他者を  
思い、己を振り返り、生活の基盤を  
見つめ直し、互いに支えあって生き  
てゆきたいものだと願っています。  
取り留めのないことを述べました。  
日ごろより二松学舎へお寄せいた  
だいておりますご理解とご支援に感  
謝申し上げますとともに、皆様のま  
すますのご健勝とご活躍を祈念し、  
ご挨拶いたします。

## 学生のための父母会活動

父母会会長 篠塚義光



「課外活動助成」「大学行事等への  
助成」「卒業記念パーティー」  
「卒業記念品」「奨学金」「父母会  
報の発行」「営繕助成」「就職指  
導支援」等を具体的な活動として  
実施して参ります。特に「地区別  
父母懇談会」では大学の現  
況報告、就職状況、学習状況等  
より細かい情報を得ることがで  
きますので皆様の積極的なご参  
加をお願い致します。  
日本の経済は震災の影響もあり  
りまだまだ不透明な状況にあり  
ご父母の皆様も何かと不安があ  
ると思いますが、大学、学生、父  
母会が力を合わせることで解決  
できると確信しております。そ  
のためにお預かりした会費を有  
効に活用して参りますのでご父  
母の皆様もより良い活動のため  
のご提案ご意見をお願い致しま  
す。  
最後に役員一同、学生のため  
の父母会活動」実現のために微  
力ながら精一杯努力して参りま  
すのでこれまで同様暖かいご支  
援をよろしくお見舞い申し上げます。



本年度、父母会役員を務めさせて  
いただく事になりました。我が家は  
夫も私も本校の卒業生です。このよ  
うな形でなつかしい九段の坂を歩け  
ることを楽しみながら、身のひきし  
まる思いでおります。母校へのご恩  
返しとともに、学生の皆さんのため  
にお役に立てるように精一杯務めて  
まいりたいと存じます。どうぞよろ  
しくお見舞いいたします。

野口 悦子



本年度、父母会役員を務めさせて  
頂く事になりました。今までの役員  
の経験を活かし皆様のお役に立てる  
ように努めていきたいと思ひます。  
又、三月十一日の未曾有の大震災で  
は、被災され精神的なショックを受  
けられた学生本人やご家族の方がい  
らしたと思ひます。私は、カウンセ  
ラーとして活動しておりますので、  
微力ですがメンタル面の支援のお手  
伝いもできればと思っております。  
どうぞ宜しくお見舞いいたします。

小林 良記

田中 貴子

## 新役員紹介

## 役員に就任して



受付

総会出欠ハガキの通信欄から、会員の方々のご意見をまとめました。

○学生金庫について 内規では「原則として…」と表示されているが、四年間九段にした学生はどうなりますか。 (千葉県 国文1年)

○お世話になっております。何かお手伝いできることがあればと思っております。 (東京都 政経2年)

○強い日本国を支える人材を育成することにプラスとなる会となることを希望します。 (広島県 政経1年)



総会

《父母会事務局より》  
「ご確認のありました「父母会学生金庫取扱要領(内規)」の利用窓口」の項について、平成二十三年六月十一日役員会において次のとおり変更されましたので、ご回答します。(利用窓口) 7 学生金庫の窓口は、教学課(九段)、又は柏事務課とする。」

○昨年出席できなかったため、本年度をたのしみに行っております。宜しくお願いたします。 (長野県 国文1年)

○学生会や社会のためになることのサポートができるような父母会であってほしいと思います。 (静岡県 国文2年)



役員を紹介

氏名	役職	学年	氏名	役職	学年
篠塚義光	会長	4年	永松はるみ	委員	3年
吉田浩之	副会長	3年	鳴海るみ子	委員	2年
高野和基	副会長(学務局長)		岩田秀生	委員	2年
月永美世香	会計監査	4年	星照子	委員	2年
堀川智子	委員	4年	三輪秀彰	委員	2年
栗田順子	委員	4年	小林良記	委員	1年
塩澤尚子	委員	4年	田中貴子	委員	1年
権平雅子	会計監査	3年	野口悦子	委員	1年
國府田恭子	委員	3年			

平成23年度役員

○総会に先立ち開催した文学部・渡邊了好先生による講演「韓国はこんなところ」は、普段聞くことができないう大変興味深い内容でした。先生は途中、アンケートと称して「韓国に興味のある方」「韓国語に興味のある方」等質問され、大変多くの方が挙手されました。また、最後に質問された「現在韓国語を習っている方」には一名の方が挙手をされ、学習意欲の高い父母がいらっしゃる事が印象的でした。

○毎年、貴重なご意見を頂戴し、ありがとうございます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

平成23年度 二松学舎大学 父母会定期総会議事録(抄)

日時:平成23年6月18日(土) 13:30~17:00  
場所:九段校舎 401教室  
講演:「韓国はこんなところ」

二松学舎大学教授 渡邊 了好先生  
出席者:本年度会員数 3,023名  
委任状 1,127名  
出席者 80名 合計 1,207名  
大学側:渡辺学長、大山理事長、吉崎副学長、高野学務局長、井上教学事務部長、高柳柏事務部長、志村教学課長

1. 開会の辞 司会 永松はるみ  
司会者より「本日総会時の会員数は、3,023名であり、父母会会則第9条により委任状を含めて605名の出席が必要です。本日の出席者は80名。委任状は1,127名。合計1,207名です。よって本日の総会は成立する」との説明があった。  
続いて、桐原利之父母会長、渡辺和則学長、大山徳高理事長からそれぞれ挨拶があった。

2. 議長指名 司会者より「総会の議長は父母会運営細則により会長または会長の指名するものとなっております。会長より國府田恭子さんが指名されているので、國府田議長のもとで議事を進行させたい」との説明があり、國府田氏が席についた。

3. 書記・議事録署名人指名 國府田議長が書記及び議事録署名人として次の各氏を指名した。  
書記 栗田順子氏  
議事録署名人 鳴海るみ子氏、星照子氏

4. 議事 ◇第I号議案〈平成22年度事業報告並びに決算〉  
桐原会長より、議案書に基づき概要説明があり、続いて幸田会計監査より監査報告があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

◇第II号議案〈平成23年度役員選出〉  
國府田議長から、会則第6条・8条に基づき、総会において役員(会長・会計監査)を選出することとなっているとの説明があり、その選出方法について諮られた。選出方法が議長に一任されたのを受け、國府田議長から前回同様、大学側に候補者の推薦を依頼したいとの提案があり、承認された。依頼をうけた大学側(高野学務局長)より次の各氏が推薦された。

会長 篠塚義光氏  
会計監査 月永美世香氏 権平雅子氏  
國府田議長が大学側から推薦された各氏について諮ったところ異議なく承認された。  
続いて篠塚新会長より就任の挨拶があった。

◇第III号議案〈平成23年度事業計画並びに予算〉  
篠塚新会長より、議案書に基づき概要説明があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

議事終了後、下記の退任役員へ渡辺学長より感謝状と記念品が贈呈された。

桐原利之氏、幸田類氏、渡辺良子氏

5. 閉会の辞 司会 永松はるみ

◇懇親会  
九段校舎13階ラウンジに移動し、懇親会が開催された。17時、盛会のうちに終了した。

議長 國府田恭子氏  
議事録署名人 鳴海るみ子氏  
" 星照子氏  
書記 栗田順子氏



学長より感謝状授与

桜花爛漫の四月の入学式からはや三ヶ月余。七〇七名を数えた新入生もキャンパスでの生活にも慣れ、ようやく大学生らしくなってきました。高校時代とは異なり、自分の裁量・責任で、判断・選択し、創り上げていく生活が始まりました。新たな出会い、様々な経験を得た学友が二松学舎で新しいスタートを踏み出しました。ここでは、大学生活に対する抱負・意気込みを各学科の新入生に書いてもらいました。



国際政治経済学科

岡野 博仁

今年は何年とは違い約一ヶ月遅れで入学を迎え、この原稿を書いている頃講義が本格的に始まり、大学というものによりやく慣れ、自分なりの時間の使い方も把握し予習復習も余裕をもってできるようになってきたところです。

「大学で学ぶ」という事は高校までのカリキュラムとは全く異なり学科に沿った科目だけでなく興味がある分野も学ぶ事ができ単に覚えるだけでなく、何故そうなるのか自分の意見を取り入れてまとめたり、そしてそれを今後どのように活かしていくのか考えていくように自身の姿勢から能動的に学ぶ事が大切で、

四年間は長いようで短く「少年老いやすく学なりがたし」という言葉もあるように目的意識を高くもたなければあつという間に過ぎてしまいます。大学生活にはサークルで生涯の友人となりうる人々との交流やアルバイトを通じて社会経験を重ねるなど様々な選択肢があります。しかし、楽しい事ばかりではないかもしれませぬ。時には悩み厳しい事が

あるのかもしれませんが。その時困難を嘆くのではなく、遠い未来、自分の力を本当に必要とする人が現れて自分には、その人を助ける事ができない、というような事にならないためにも折角四年間という時間があるのだから準備していきたいと思えます。きっとそれが自分の人生全体から引き算できない経験に結びついていくのだと確信しています。

そしてまた触れた事の少ない社会に関わり広い視野、冷静に物事を考える洞察力、何より自分がどれほど周りの人に支えられ温かく見守られているか、家族の優しさにきちんと目を向けられるようになりたいものです。

先の未曾有の大震災もあり、この先日本はどうなっていくのかわかりません。しかしこの二松学舎大学で学んでいく四年間を「あの四年間」と将来胸を張れるよう今僕達がなくてはならない事を一つずつ着実にこなしていく所存です。

先ず、大学生活が始まると慣れるまでは苦勞の連続で不安に満ち溢れてました。しかし今では落ち着いた生活を送ることができるようになりました。

この大学を知った時、正直にここしかない、と感じました。それはこの大学の建学理念に共感したからです。思えば現代の人々もまた、明治に三島中洲氏が憂いたような状態であると私は思っています。そこで日本の本来の思想・精神を学びたかったのです。

さて、大学生活が始まると慣れるまでは苦勞の連続で不安に満ち溢れてました。しかし今では落ち着いた生活を送ることができるようになりました。

四年間は人生で最も自由な期間と仰っていました。高校の先生が「大学の四年間は人生で最も自由な期間」となるほど沢山時間が有り、ちよつと遠出して色々な所を見に行ったり新しい趣味を模索して楽しんでいます。ですが学業は疎かにはできません。親が苦勞して北海道からここに入れてくれたので、そこを忘れずこの期間を無駄にならないように励まねばなりません。また、将来就職という事もあります。自分なりに、学びたいこと、就職に際し役立ちそうな授業科目を織り交ぜて選んだつもり

です。しかし、もし就職に役立たなかつたとしても、どこか自分を成長させる糧になるであろうと思えます。大学生というのは、前に述べたように自由な期間です。しかしながら自由という事は、裏を返せばその分の責任を負わねばならないという事です。自分の全ての行動に責任を持たねばなりません。今まで以上に物事をよく考えて行動するよう努めていこうと思えます。

私はまだ将来どうするか、という事は漠然としか考えられていませんが、今はとにかく自分のやりたかつた学問をひたすら修めようと思えます。そうすることで何か見えてくるものがあるような気がします。とにかくこの四年間を有意義な物にして、将来親や支えてくれた人々に孝行できよう努力したいと思えます。



国文学科

和田 みさき

今年は何年とは違い約一ヶ月遅れで入学を迎え、この原稿を書いている頃講義が本格的に始まり、大学というものによりやく慣れ、自分なりの時間の使い方も把握し予習復習も余裕をもってできるようになってきたところです。

極的に行動していかねければならぬということ。小中高ではあらかじめ決められた時間通りに授業を受けるだけでしたが、大学では時間割りは自分で決め、それに合わせて自分で時間を考えて行動しなければなりません。有り余る膨大な時間をどれだけ有意義に使えるかは自分次第。その時の行動が少なからず四年間の大学生活に何らかの影響を与えるのです。私は自由であることの難しさを改めて実感しました。それでも、せつかく与えられたこの時間をできる限り有効活用して、サークル活動やアルバイト、資格取得などたくさんの方に挑戦していきたいです。

まだまだ先が見えない大学生活ですが、充実した四年間にしたいと思えます。そしてここで過ごした時間が、少しでも自分の将来のための材料になればいいなと思えます。

ところで、大学は高校と違い、基本的にとても自由です。しかしそれは逆に、何でもどンドン自主的に積



文学部教授  
山崎 正伸

学生運動真っ直中に、思いがけず文学という世界に入った。それも、全く知らない、調べてもいなかった大学。唯一の息抜きは、本間先生の生物の授業くらいで、後は、古文漢文とその関連科目ばかりで、高校時代のツケが回ってきたみたいだった。出会いは実に不思議なものである。中学一年生から眼鏡を必要とした私は、大学生には見えなかったようだ。

菅原 淳子



小学生だった私が、「未知なるもの」の探究に対する興味を抱き始めることになったのは、エジプトのピラミッド発掘や楼蘭とさまよえる湖の話、シュリマンの自伝との出会いがあった。わくわくしながら読んでこれらの本や、父の部屋にあった『世界の文化地理』全集によって、世界の様々な国への関心が私の中で大きく膨らんでいった。

クラブにも入部できず、教室にいても、おじさんが混じっているようにしか受け取れなかった。偶然か必然かは分からないが、立て続けに四人の先生方との出会いがあった。大谷光男先生には、授業中に帰りに一杯と誘われた。それは、古文書研究会を立ち上げて欲しいという依頼であったが、初めて大学の先生と飲んだビールとなった。次が、廊下で声を掛けてくださった恩師の雨海博洋先生、先生の研究室に誘われて、先生の留守に、当時の四年次生に聴講カードを渡

## 私の学生時代

大学は津田塾の芸学部国際関係学科へ進んだ。他に先駆けて設置された国際関係学科に入学したものの、私はここで何を学べるのか十分に理解していなかったし、自分が何を学びたいのかもまだ漠然としていた。ただ、従来の学問分野では学べない「何か新しいことが学べる」という期待があった。期待した通り学内は、教員と学生が共に新しい学問を作り上げていくのだという熱気に溢れていた。大学での知の刺激は、私にとって新鮮であり、驚きであり、楽しいもので

されて聴講許可を求められる羽目になった。もう一つの出会いは、剣持武彦先生。文学研究など何も考えていない私に、クラスの仲間、何を研究するのかと頻りに詰問する。無い知恵を絞って、森本太郎、森鷗外と答えたが、それでも許してもらえず、困り果てて、剣持先生の研究室を訪ねた。森鷗外を研究するにはどうすれば良いのかという、一年生の漠然とした質問に、「鷗外をやるには、近松と西鶴がわからないとだめですね」とお答え下さった。その日に古書店に行

って、文庫本を買って朝まで読んだ。西鶴は面白いと思った。しかし、そのテンポの基調となる歌謡が分からない。毎日古書店に行つて、本を買って読んで読むということが始まった。いつか明治に、きつと鷗外にと。しかし、道は遠かった。いえ、山田清市先生の伊勢物語の講義に魅せられた。そして、三年次になって、雨海先生の枕草子と大和物語と、平安時代にどっぷりとつかうことになった。私にとって、明治は遠くになりけり、草田男の別の意味でも

部に入ってしまったのである。バドミントン学科に入ってしまったような生活を一年続け、退部した。二年生になると、国際政治や地域研究といった専門の授業も始まり、学外でも、他大学の学生との読書会に参加したり、四年次には他大学で学んでいる友人のゼミ合宿に参加したり、今思えば積極的な学生生活を送っていた。神保町の古本屋街を歩いたり、

ロシア語を第二外国語に選んでいた私の関心は、次第にソ連や東欧・バルカン諸国の歴史や政治に向かっていた。情報が限られていた当時私にとつて東側は未知の世界であった。卒論を書き上げていく中で、もっと勉強したいという気持ちは強まり、私は大学院への進学を決めたのであった。

三月十一日の大震災を境にして、あらゆる状況が一変してしまいました。本学でも授業開始時期を遅らせるなど、大学生活においても今までにない対応を行っています。就職活動についても例外ではなく、大小様々な形で影響が出ています。一つは採用活動の変更です。採用活動自体を延期・凍結してしまっている企業も少なくありません。また、採用を継続する企業でも募集人員の変更など少なからず影響があるようです。

もう一つは、学生の就職活動に対するモチベーションの低下です。採用活動の延期により、内定(内々定)時期がずれ込むなど、想定外の事象に対し、就職活動に疑問・不安を抱えてしまう学生もいるようです。特に本学の場合は6月頃から教育実習を行う学生が多いため、教育実習が就職活動の妨げになるのではないかと心配している四年生を多く見かけます。

「学内合同企業説明会」を開催いたします。また、本年度は千葉県の就職対策事業の一環として本学にキャリアアカウンセラを配置し、四年生のサポート体制を強化しています。さて、三年生の採用スタートは、報道などでも伝えられてはいるとおり、今までの十月スタートから若干遅くなり十二月スタートとなります。とはいえ、事前の準備はもう始まっています。

就職活動の方法や会社の価値観(評価)は時代とともに変わってきています。そのことについての情報提供・アドバイスは、キャリアセンターが責任を持っています。学生・父母・キャリアセンターが一体となり、この厳しい就職環境を乗り越えていきます。

しかしながら、震災だから仕方がない」と言ってしまう話はありません。学生たちには「この災害を乗り越えて、私たちが新しい社会を作るんだ」というぐらいの、強い意志・気概を持って、前に進んで行ってもらいたいと思います。現在活動中の学生のより一層の奮

起を期待しています。キャリアセンターでも、四年生への支援を目的とした「学内合同説明会」を追加開催したり、長年お付き合いのある企業に求人情報の再確認をしたりするなど、求人企業の確保に努めています。更には、大学に届いた求人については、JNETを通じて積極的にメール配信を行なっており、四年生の就職活動を全力で支援してまいります。今後も毎月一回を目的に四年生対象の「学内合同企業説明会」を開催いたします。

## キャリアセンターだより

この号が届くころには、インターシップに参加する予定のご子女もいるかもしれません。採用時期が後ろにずれた分、短期での活動となりますので、いかに事前準備をしつかりやり、よいスタートが切れるかが非常に重要となります。キャリアセンターでは「就職特別講座」(毎週水曜五時限目)を通じて徐々に就職に対する心構えを伝えていきます。

教師・公務員を目指す学生たちも、そろそろ本格的な試験対策を始めなくてはならない時期となります。筆記試験対策として、まずは漢字書き取りと四則演算を復習してください。こういうと学生は馬鹿にされているように思うようですが、この基本ができていない(忘れてしまっている)のが現状です。

# POP!GUTS!2011 開催

**柏祭(POP)を終えて 二年 南雲ふみ**

柏祭POPが六月二十六日に行われました。今年には震災の影響で大学の始業が遅かったために、柏祭POPの準備を開始するのも遅くなってしまいました。しかも、中心となる二年生が柏キャンパスと九段キャンパスに分かれてしまっているの、情報を共有するということが難しく、会うことが出来る時間も少なかったためチームワークや協調性の問題も出てきてしまったのでさらに大変でした。けれども、先輩の協力や、後輩の面倒を見ていくうちにだんだんと情報共有が出来るようになりまし。皆で試行錯誤しながら、どうやったらよい方法になるか、などをたくさん話し合いながら日々を過ごしていったので、準備日までの時間があ

つという間に過ぎて行きました。準備日は柏キャンパスに先輩や一年生も全員がそろっての仕事だったので、なんだか嬉しくなりながら準備をしていました。慌ただしくも、その中でみんな協力しながら作業をしているのは楽しかったです。それでも、一年生に指示を出したり、全体を仕切ったりすることは、初めてのことであったのでやっぱり不安でした。

そんな不安の中で始まった柏祭POPは、先輩方の協力や、ひとりひとりが一生懸命動いたおかげでこれといった大きな問題もなく大成功でした。快晴、というわけにはいかず小雨がパラパラと降る天気でしたが、最後まで天気を持ってよかったと思えます。去年経験したとはいえ、責任者という立場は大変なことだらけでした。けれどもとても楽しかったです。そして、仕事をやり遂げられて本当によかったと思っています。協力してくれた先輩たちや、くじけそうになった時に励ましてくれた仲間たちにとっても感謝しています。成功して本当によかったです。ありがとうございました。



**GUTS!! 二年 松葉陽香**

柏祭GUTS2011は七月三日に行われました。いつもは静かな柏キャンパスも、この日は活気と熱気に包まれたいへん賑やかな日となりました。競技種目はソフトボール、フットサル、そしてバスケットボールとバレーボールの四種目です。フットサルは男女の混合チーム同士での試合でした。どのチームも一歩も譲らず、最後までどのチームの優勝となるか予想のつかない、手に汗握る展開となりました。

ソフトボールは外で行うため毎年天気の心配がされる競技ですが、今年には晴天に恵まれ順調に試合が進みました。

バレーボールは昨年、競技場の都合で中止された競技でしたが、多くの学生の要望もあり、今年は開催さ

れました。

バスケットボールは毎年人気の競技で、今年もたいへん盛り上がりを見せました。近くで試合を見たのですが、コート内を猛スピードで駆ける選手たちの迫力に圧倒されました。

そしてこれはどの競技でも感じたことですが、どの選手も試合開始、終了の際の挨拶が爽やかで、とても清々しい光景でした。そして学生会役員が「お疲れ様です」と声をかけると、「ハキハキと「お疲れ様です」と返してくれる選手の数々にこちらも力をもらいました。

柏祭GUTSは二松学舎大学唯一の球技大会とだけあり学生から多くの支持を受けている行事です。今年も怪我人もなく無事に終了しました。参加者の皆さんの、学生生活の大切な思い出のひとつとなって頂けたらとても嬉しいです。

## 平成23年度 地区別父母懇談会日程・会場

月日	開催地	会場	所在地	電話
10月1日(土)	群馬県(高崎市)	高崎ワシントンホテルプラザ	〒370-0849 群馬県高崎市八島町70	027-324-5111
10月1日(土)	岡山県(岡山市)	ホテルエクセル岡山	〒700-0813 岡山県岡山市石関町5-1	086-224-0505
10月2日(日)	大阪府(大阪市)	大塚なんばワシントンホテルプラザ	〒542-0073 大阪府大阪市中央区日本橋1-1-13	06-6214-3332
10月8日(土)	東京都(千代田区)	二松学舎大学九段校舎	〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16	03-3261-7406
10月16日(日)	山梨県(甲府市)	甲府ホテル	〒400-0024 山梨県甲府市北口1-2-17	055-252-1311
10月16日(日)	石川県(金沢市)	ガーデンホテル金沢	〒920-0853 石川県金沢市本町2-16-16	076-263-3333
10月22日(土)	千葉県(柏市)	二松学舎大学柏校舎	〒277-8585 千葉県柏市大井2590	04-7191-8756
10月29日(土)	静岡県(静岡市)	静岡グランドホテル中島屋	〒420-0852 静岡県静岡市紺屋町3-10	054-253-1151
10月29日(土)	山形県(山形市)	山形国際ホテル	〒990-0039 山形県山形市香澄町3-4-5	023-633-1313
10月30日(日)	福島県(郡山市)	チサンホテル郡山	〒963-8002 福島県郡山市駅前1-8-18	024-923-6711

※平成23年度二松学舎大学父母会定期総会資料P6の1.<地区別父母懇談会>山梨県(甲府)会場は「甲府ホテル」に変更しましたので、ご了承ください。

父母会事業計画の一環として、開催されている地区別父母懇談会の日程・会場が決定しました。例年は六月から七月にかけて実施していましたが、今年度は東日本大震災の影響により授業の開始を遅らせた関係で、十月に実施することとなりました。会期が近づきましたら、改めてご案内します。

## 新入生歓迎式典

**「初仕事、初めての挑戦」**

初めまして！学生会執行委員会の会長を務めております、鈴木新と申します。

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。これからよろしくお願ひします。

今年の新入生歓迎式典は初めて九段キャンパスのみで行いました。初めての試みで最初は不安もありました。そして、未曾有の大震災。正直開催自体も無理なのではないかと思つたこともあり。それでも何とか皆さんの助けを借り、本番を迎えることができました。

当日は、予想を超える新入生の方が九段キャンパスに来てくれました。例年とは違い、各クラブ・サークルの皆さんにはご迷惑をおかけした部分も沢山ありましたが、結果的に沢山の新入生を迎え入れることができよかったですと思つています。

そして、私が一番嬉しかったことは、ある新入生に「ありがとう」と言われたことです。まだ名前も知らない新入生にありがとうといわれたときは新入生歓迎式典を企画して良かったなと思えました。昨年までと



は違う事だらけで、正直戸惑うことも多かった私達ですが無事に終えることができて良かったと思っております。

この新入生歓迎式典は私が会長としての初めての仕事で皆さんに迷惑をかけてしまった部分も多かったですが、今は新入生歓迎式典が成功してとても良かったと思つています。

### 《松本ゼミナール》

私たちが所属している松本ゼミでは、松本直樹先生のもと、上代文学である『古事記』を中心に学んでいきます。日本神話の特徴や古事記成立の意図など、誰もが一度は耳にしたことのあるさまざまな神話をさまざまな視点から読み取っていきます。

授業は講義と発表とを織り交ぜた形で進められます。春セメスターでは講義を中心として一般的な考え方を、秋セメスターでは早稲田大学の教授でもある、松本先生独自の

の考え方も教えていただけるので、知識をより深めることができました。また、初めて古事記に触れる学生も多いので、一からしっかりと教えていただけで、初心者にも優しい、とても学びやすいゼミになっていると思います。

秋セメスターになると今度は講義から発表形式に変わっていき、今まで学んできたことを元に調べ、発表していきます。ここでは学生達が積極的に発言したりもするので、お互いの知識を高めていくことができます。

#### 『古事記』だけ



ではなく『日本書紀』や『風土記』などといった文献を研究テーマとする学生もいて、日本神話の世界をさまざまな視点から読み取っていくことになり、授業は常に新鮮です。毎回違った新しい顔を見せてくれる、それが私たちの所属している松本ゼミなのだと思えます。

私たちのゼミは、学生同士の仲が良いのももちろんのこと、先生との仲も良く、お酒好きが多く、とても明るく和気あいあいとしたゼミです。

国文学科三年 高橋 拓亨

### 《大地ゼミナール》

私たちが所属している大地ゼミでは陶淵明の死生観について研究しています。普段の授業では陶淵明の作品の中で死生観に関わる作品について担当者が発表し、その内容に関して全員で議論するという形式で行っています。先生からも詳しい補足説明や調査方法のアドバイスをいただけるので、自分たちで気づけなかった部分や問題の見つけ方を学ぶことができ、少しずつ力が付いていくのが実感です。

夏と、春に合宿があり、卒業研究や進路相談、輪読会を行います。とくに輪読会では普段の授業よりも長い時間をかけて議論を交わすことで互いに理解が深まります。また、三年生と四年生と一緒に議論をするので、三年生にとってはこれからの授業や卒業研究の手法を学ぶとてもいい機会になっています。合宿で寝食をともにすることで、ゼミ生同士のきずなが深まります。

また、「武子会」という大地ゼミのOB会があり、年に一回親睦会が行われます。在校生はその企画・運営

を任されているので、ゼミ生全員力を合わせて取り組めます。そのおかげで、授業だけでは学ぶことのできないイベントの企画力・実行力・チームワークなどの将来に必要な力を身につけることができます。

大地ゼミは「よく学びよく遊べ」というモットーの通り、発表や研究には真剣に取り組みますが、それ以外の時間はとてもアットホームな雰囲気です。これからも大地先生のもとで勉学に励み、遊ぶ時は大いに遊び、充実した大学生活を送りたいと思います。

四年 菊地 恵子



### 第一回役員会開催

平成二十三年度第一回役員会が、七月二日(土)柏校舎で開催されました。

当日は初会合となった新役員を含め十四名が出席しました。

役員会では、本年度の年間活動予定について審議しました。

次回役員会は九月の予定です。

### 第十五回 二松学舎大学 夏期中国語・歴史文化研修

父母会では教育研究振興のため夏期中国語・歴史文化研修の引率教員旅費に一部助成をおこなっています。本年度は左記の日程で開催されます。

期間 八月九日〜八月二十九日  
研修地 北京大学・歴史学系  
引率教職員

#### 【文学部】

- 源川 進 教授
- 町 泉寿郎 准教授
- 【柏事務課】
- 田村 悠(国際交流担当)

参加学生皆さんにとって有意義な研修となりますよう応援いたします。



### 編集後記

未曾有の地震・津波・原発事故等で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。良き思い出になるはずの大学行事も軒並み中止・縮小・延期になり、学生・ご父母におかれましては振り回され続けた四ヶ月間になったのではないのでしょうか？一刻も早い正常復帰を祈るばかりです。

さて、二松学舎大学父母会は各学年三〜五名・合計十六名の役員で構成され、平成五年に発足してから今日に至るまで大学側と連携・協力して、新入生歓迎会、奨学金支給、海外留学生懇親会開催等、学生生活に関わる諸般支援活動を行なっております。

今般、父母会活動の一環として、年に四回発行している父母会報の平成二十三年度第一回目をお届け致しましたが、内容は如何でしたでしょうか？ご意見等がございましたら、父母会事務局に「一報」いただければ幸いです。

また、大学のホームページから検索が出来る父母会のページでは、入学式・大学祭等、学生生活を垣間見ることができますので、父母会報同様、是非一度ご覧くださいます様、宜しくお願い申し上げます。

震災を受け、私たち一人一人が今自分ができることを考えています。学生の中には、長期休暇に被災地へ赴き、ボランティア活動をする人も多いでしょう。

惨事ストレスという言葉を知っていますか。大きな災害があったり、災害の現場で活動することによって起こる、からだや気持ちの様々な変化(ストレス反応)のことです。あらわれかたや強さは様々ですが、災害に何らかの立場で触れた人には誰にでも起こります。異常事態を受けたからだや心が回復しようとして

**学生相談室**  
**だより 73**  
カウンセラー **奥野 光**

たとえば、被災地で活動した人に現れやすい反応に以下のようなものがあります。

①興奮状態が続く(気持ちが落ち着かず寝付けないなど)、②体験を思い出す(フラッシュバック)といつて、突然とても鮮明に現場の光景や人の言葉が思い出されたり、夢に見たりする)、③思い出すのを避けようとする、④身体の不調(眠れなくなる、頭痛や肩こ

り、めまい、疲れやすくなる)、他にも様々な反応があるでしょう。普通、惨事ストレスは時間とともに消えていきますが、長く続いて普段の学業や生活に支障が出ることもあります。帰宅してしばらくしてからストレスを感じ始めることもあります。そんなときには、カウンセリングや治療の助けを借りることをおすすめします。学生相談室ではカウンセリングや医療機関の紹介を行っています。

ボランティア活動から帰ってきた学生には、ゆっくり休養をとることをすすめたり、一緒に過ごす時間をつくったり、現場で起こったことや感じたことなどを聴いてあげてください。学生の尊い活動が、被災した多くの人の助けになるだけでなく、学生自身にとっても意味のある体験となるよう願っています。

【参考】災害ボランティアの惨事ストレス プチガイド(監修：岡野谷純 松井豊/協力：災害援助研究会)

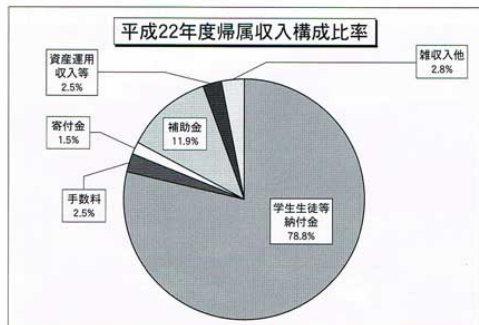
別表1 消費収支計算書 (単位:百万円)

科目	平成22年度	平成21年度	増減
<b>消費収入の部</b>			
学生生徒等納付金	3,745	3,728	17
手数料	118	138	△ 20
寄付金	73	62	12
補助金	565	1,027	△ 463
資産運用収入	108	124	△ 16
資産売却差額	9	7	2
事業収入	3	6	△ 3
雑収入	131	51	80
帰属収入合計	4,752	5,143	△ 391
基本金組入額合計	△ 404	△ 957	553
消費収入の部合計	4,348	4,186	162
<b>消費支出の部</b>			
人件費	2,703	2,682	20
教育研究経費	1,381	1,491	△ 110
管理経費	374	456	△ 82
借入金等利息	40	44	△ 4
資産処分差額	315	371	△ 56
徴収不能額等	10	0	10
消費支出の部合計	4,823	5,045	△ 222
当年度消費支出超過額	△ 475	△ 859	384
前年度繰越消費収入超過額	1,382	2,241	△ 859
翌年度繰越消費収入超過額	907	1,382	△ 475

別表3 貸借対照表 (単位:百万円)

科目	平成22年度末	平成21年度末	増減
<b>固定資産</b>			
有形固定資産	21,910	21,926	△ 16
その他の固定資産	16,836	16,493	343
流動資産	5,074	5,433	△ 360
資産合計	27,151	26,884	267
<b>固定負債</b>			
流動負債	3,519	3,274	246
負債合計	1,618	1,526	92
負債合計	5,137	4,800	338
基本金	21,107	20,703	404
当年度繰越消費収入超過額	907	1,382	△ 475
負債・基本金・消費収支差額合計	27,151	26,884	267

(注)別表の金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計など数値が計算上一致しない場合がある。



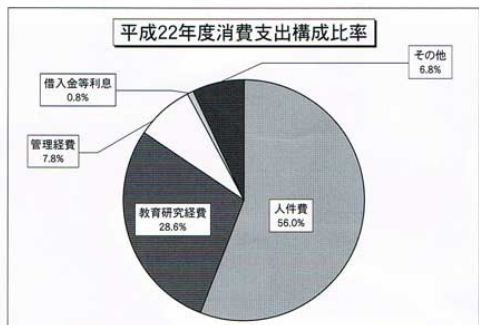
別表2 資金収支計算書 (単位:百万円)

科目	平成22年度	平成21年度	増減
<b>収入の部</b>			
学生生徒等納付金収入	3,745	3,728	17
手数料収入	118	138	△ 20
寄付金収入	52	56	△ 5
補助金収入	565	1,027	△ 463
資産運用収入	108	124	△ 16
資産売却収入	1,344	312	1,032
事業収入	3	6	△ 3
雑収入	131	51	80
借入金等収入	501	2	499
前受金収入	705	903	△ 198
その他の収入	772	3,142	△ 2,370
資金収入調整勘定	△ 1,042	△ 1,232	190
当年度資金収入合計	7,001	8,257	△ 1,256
前年度繰越支払資金	2,156	1,824	332
収入の部合計	9,156	10,080	△ 924
<b>支出の部</b>			
人件費支出	2,747	2,725	22
教育研究経費支出	878	1,037	△ 159
管理経費支出	347	431	△ 84
借入金等利息支出	40	44	△ 4
借入金等返済支出	250	251	△ 0
施設関係支出	707	1,480	△ 773
設備関係支出	149	286	△ 136
資産運用支出	308	562	△ 254
その他の支出	1,629	1,365	263
資金支出調整勘定	△ 551	△ 256	△ 295
当年度資金支出合計	6,504	7,925	△ 1,421
次年度繰越支払資金	2,652	2,156	497
支出の部合計	9,156	10,080	△ 924

別表4 主な財務比率 (単位:%)

比率	計算式	平成22年度	平成21年度	21年度全国平均
人件費比率	人件費/帰属収入	56.9	52.2	51.5
人件費依存率	人件費/学生生徒等納付金	72.2	72.0	98.1
教育研究経費比率	教育研究経費/帰属収入	29.1	29.0	34.2
管理経費比率	管理経費/帰属収入	7.9	8.9	9.2
帰属収支差額比率	(帰属収入-消費支出)/帰属収入	-1.5	1.9	3.6
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金/帰属収入	78.8	72.5	52.5
固定資産構成比率	固定資産/総資産	80.7	81.6	84.3
固定比率	固定資産/自己資金	99.5	99.3	97.9
流動比率	流動資産/流動負債	323.9	324.9	282.3

(注)「全国平均」は、日本私立学校振興・共済事業団集計による学生生徒数3千～5千人の大学法人の平均を示す(106件)。



学校法人二松学舎(二松学舎大学・同附属高等学校・同附属沼南高等学校)の平成22年度決算、23年度予算の概要を掲載いたします。

## 学校法人二松学舎 平成22年度決算の概要

### 平成22年度の状況

教育研究環境整備として、昨年度より老朽化により体育館の建替を進めていた附属沼南高校では平成23年2月に新体育館が完成し、大学では九段集約に向けた九段1号館の改修工事及び別館の整備工事を実施し、附属高校では教育環境を維持するため施設設備の保守整備を行った。平成22年度における入学者の募集定員充足率は、大学/学部135%、附属高校96%、沼南高校84%であり、在籍者の収容定員充足率は、大学/学部126%、附属高校99%、沼南高校95%であった。学生生徒等納付金収入は学校法人全体では前年度比増加となったが、大学(学部)の入学者数が807名(文学部517名、国際政治経済学部290名)となり、入学定員超過により大学の経常費補助金が不交付となったため補助金収入が大幅減少(前年度比約2億8千万円)となった。

### 平成22年度の決算概況

学校法人における決算書は、事業年度の消費収入と消費支出の均衡状態や財政の健全度合いを示す消費収支計算書、学校法人の諸活動に関するすべての資金の流れを示す資金収支計算書および年度末における資産・負債・正味資産の状態を示す貸借対照表から成っており、それぞれ別表1、別表2および別表3のとおりである。

#### 1. 消費収支計算書について(別表1)

消費収支計算書では、帰属収入合計は47億5千2百万円、基本金組入額は4億4千万円、消費収入合計は43億4千8百万円に、消費支出合計は48億2千3百万円になり、消費収支差額は4億7千5百万円の消費支出超過となった。消費収入では、入学者数は大学院30名・学部807名・附属高校241名・沼南高校208名、合計1,286名で前年度比29名減少、在籍者は大学院83名・学部3,017名・附属高校743名・沼南高校710名、合計4,553名(人数は平成22年5月1日現在)で前年度比10名増加となり、学生生徒等納付金は、大学の在籍者数増により37億4千5百万円(前年度比1千7百万円の増加)となった。補助金は、経常費補助金が大学は入学定員超過(1.35倍)により不交付、附属高校・沼南高校は前年度比増加となったが、昨年度で防衛省騒音防止補助金が終了したため全体では5億6千5百万円(前年度比4億6千3百万円の減少)となった。雑収入は退職金団体交付金の増により1億3千1百万円(前年度比8千万円)となった。消費支出では、人件費は27億3千万円(退職給与引当金繰入額増加等により前年度比2千万円の増加)、教育研究経費は13億8千1百万円(前年度比1億1千万円の減少)となり、管理経費は3億7千4百万円(前年度比8千2百万円の減少)、資産処分差額は固定資産の除却と有価証券の評価替により3億1千5百万円(前年度比5千6百万円の減少)となった。

#### 2. 資金収支計算書について(別表2)

収入の部では、資産売却収入は有価証券の満期償還等により13億4千4百万円(前年度比10億3千2百万円の増加)となった。借入金(大学校地取得のうち5億円は沼南高校体育館建設資金として私学事業団からの借入金であり、学納金等の前受金収入は7億5百万円(前年度比1億9千8百万円の減少)となった。支出の部では、人件費支出は27億4千7百万円(退職者増加により退職金支出が増加、前年度比2千2百万円)、教育研究経費支出は8億7千8百万円(前年度比1億6千万円の減少)、管理経費支出は3億4千7百万円(前年度比8千4百万円の減少)となった。借入金(大学校地取得資金)返済および利息支出は2億9千万円となった。施設設備関連の支出は、大学校舎の改修・整備、沼南高校体育館建設、両高校の校舎整備、図書・備品購入等8億5千6百万円(減少)となり、資産運用支出は3億2千万円(前年度比2億5千万円の減少)となった。このほか前期末未払金の支出等があり、これらの結果、平成22年度末における次年度繰越支払資金は、26億5千2百万円(前年度末より4億9千7百万円の増加)となった。

#### 3. 貸借対照表について(別表3)

資産の部は、有形固定資産は、大学九段1号館・別館の改修・整備、沼南高校体育館の建替工事の実施や図書・備品の購入等により168億3千6百万円(前年度末比3億4千3百万円の増加)となった。また、その他の固定資産は、次年度償還となる有価証券の短期(流動資産)への振替、退職給与引当および教育研究振興特定資産の取崩し等により50億7千4百万円(前年度末比3億6千万円の減少)となり、流動資産は52億4千1百万円(前年度比2億8千3百万円の増加)となった。負債の部は、私学事業団の新規借入(沼南高校体育館建設資金)5億円および返済2億5千万円により借入金残高が2億5千万円増加したほか、退職給与引当金、前受金、預り金が前年度比減少し、未払金が増加したことにより、51億3千7百万円(前年度比3億3千8百万円の増加)となった。

基本金の部は、建物・構築物・図書・備品等固定資産の取得により第1号基本金組入額4億3百万円、第3号基本金(奨学基金)組入額61百万円により、211億7百万円(前年度比4億4百万円の増加)となった。これらの結果、貸借対照表は、平成22年度末で資産の部合計は271億5千1百万円、負債の部合計は51億3千7百万円、基本金の部合計は211億7百万円、消費収支差額の部における翌年度繰越消費収入超過額は9億7百万円となり、正味財産額は220億1千4百万円(前年度末より7千1百万円の減少)となった。

#### 4. 主な財務比率について(別表4)

補助金収入の減少により帰属収入額が減少となり、消費収支関係比率では、退職者の増加に伴い退職給与引当金繰入額が前年度比増加し、人件費比率(帰属収入に占める人件費の割合)および人件費依存率(学生生徒等納付金に占める人件費の割合)が前年度比上昇した。経費は、大学九段1号館・別館の改修整備、沼南高校体育館の建築ほか固定資産の増加に伴い減価償却額が増加し、教育研究経費比率(帰属収入に占める教育研究経費の割合)が上昇した。管理経費比率(帰属収入に占める管理経費の割合)、消費支出比率(帰属収入に占める消費支出の割合)は良好な水準を保っている。補助金の減少と資産処分差額により帰属収支差額比率は前年度に比べ大きく低下し、本年度はマイナスとなった。貸借対照表関連比率では、固定資産構成比率(総資産に占める固定資産の割合)、固定比率(自己資金に占める固定資産の割合)、流動比率(流動負債に占める流動資産の割合)は、設備投資(大学校地の取得や校舎の建築など)や資金の保有形態のシフト(預貯金から債券へ)などから平成20年度までは固定資産の割合が高かったが、借入金返済や有価証券の満期償還(流動資産への振替)、前受金保有率上昇など流動比率の割合が高くなっている。そのほか、自己資金構成比率(総資金に占める自己資金の割合)及び負債比率(自己資金に占める総負債の割合)、基本金比率、内部留保資産比率、運用資産余裕比率、消費収支差額構成比率、退職給与引当預金率等は良好な水準にある。



## 学校法人二松学舎 平成23年度予算の概要

### 平成23年度の状況

平成23年度は、大学機能の九段集約および両附属高等学校の改革を推進し、附属沼南高等学校は「附属柏高等学校」に校名変更し、柏キャンパスに附属柏中学校を設置・開設する。事業計画は、「21世紀の二松学舎像を規定する新マスタープラン」に従って大学の教育・研究活動の推進、両附属高等学校の教育方法の見直し、学生・生徒募集体制および就職・キャリア教育の充実など学生の入口・出口対策の強化と広報体制の見直し、キャンパス整備、組織の効率化、財務改革等を段階的に推進する。

キャンパス整備については、大学機能の九段集約化に対応するため、隣地ビルの賃借と併せて図書館閲覧席・学生居住スペース・講義室の拡充や情報センターおよび国際交流センターの移転など九段キャンパスの整備が必要となる。また、柏キャンパスにおいては、図書館蔵書の増設や跡地利用方法を検討し校舎整備を計画立てて実施する。

収支については、附属柏中学校の開設に当たり学納金収入が増加となる。一方、人件費および教育研究経費並びに管理経費が発生する。私立学校への経費補助金は減額傾向にあり、資金運用収入は環境の低迷から増加が見込めない状況にある。また、大学機能の九段集約に伴うキャンパス整備の実施により、各種経費（減価償却額を含む）が発生する。

平成22年度に大学経費補助金が不交付となることにより支払資金が約2億8千万円減少する。この影響は平成23年度にも及び、収支状況は極めて厳しいものが見込まれ、更に事務系システムの更新を控えており、今後長期に亘り多額の支出が続くことが見込まれるため、不要・不急の支出は極力制限していく必要がある。

大学九段集約に向けた事務組織の見直し、事務の効率化を図りつつ教職員の定員制の遵守により人件費の削減を図るほか、事業会社（二松学舎サービス）の活用や経費全般の見直しを行うことにより収支改善を図ることを平成23年度の予算編成方針とした。

### 平成23年度の収支状況

#### 1. 消費収支予算書について（別表5）

##### (1) 消費収入の部について

- ①収入の柱である学生生徒等納付金は、37億9千7百万円となる見込みである。
- ②手数料は、入学検定料を主として1億2千7百万円を見込んでいる。
- ③補助金は、大学及び両附属高等学校および柏中学校とも経費補助金を主な収入として見込んでおり8億2千万円を計上している。
- ④資産運用収入は、安全性に配慮した資産運用を行い、8千7百万円を見込んでいる。
- ⑤雑収入は、退職金団体からの交付金9千7百万円と併せて1億2千6百万円を見込んでいる。
- ⑥基本金組入額は、施設・設備の整備及び教員・器具・備品の取得などにより、5億1千7百万円を計上している。

##### (2) 消費支出の部について

- ①人件費は、27億5千1百万円（前年度比4千8百万円増加）となる見込みである。
- ②教育研究経費は、施設設備の整備、情報システム関連経費、本学所蔵資料及び紀要のデジタル化ほか特別事業費および減価償却額などにより、14億5千6百万円を計上している。
- ③管理経費は、教育研究経費と同様に施設・設備の維持管理費と事務システム関連経費のほか特別事業費および減価償却額などにより、4億6百万円を見込んでいる。

これらの結果、附属収入は49億8千5百万円、基本金5億1千7百万円組入後の消費収入合計は44億6千8百万円、消費支出合計は46億5千9百万円となり、1億9百万円の消費支出超過となる見込みである。

#### 2. 資金収支予算書について（別表6）

収入の部は、寄付金収入、資産運用収入の減少、借入金等収入の減少、退職金団体交付金を含む雑収入などにより、当年度収入額は57億9千6百万円となり、前年度繰越支払資金26億5千2百万円と合わせて収入額合計は84億4千8百万円となる見込みである。

支出の部は、施設設備整備費支出の減少等により当年度支出額は約53億円となり、次年度繰越支払資金は31億4千8百万円となる見込みであり、収入・支出とも前年度に比べて減少となる見込みである。

別表5 消費収支予算書

(単位:百万円)

科 目	平成23年度 予 算	平成22年度 実 績	増 減
<b>消費収入の部</b>			
学生生徒等納付金	3,797	3,745	52
手数料	127	118	9
寄付金	26	73	△ 48
補助金	820	565	256
資産運用収入	87	108	△ 22
資産売却差額	0	9	△ 9
事業収入	2	3	△ 0
雑収入	126	131	△ 5
附属収入合計	4,985	4,752	233
基本金組入額合計	△ 517	△ 404	△ 113
消費収入の部合計	4,468	4,348	121
<b>消費支出の部</b>			
人件費	2,751	2,703	48
教育研究経費	1,456	1,381	75
管理経費	406	374	32
借入金等利息	44	40	5
資産処分差額	0	315	△ 315
徴収不能額等	1	10	△ 9
消費支出の部合計	4,659	4,823	△ 164
当年度消費支出超過額	△ 190	△ 475	285
前年度繰越消費収入超過額	907	1,382	△ 475
翌年度繰越消費収入超過額	717	907	△ 190

(注) 金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計額等が一致しない場合がある。

別表6 資金収支予算書

(単位:百万円)

科 目	平成23年度 予 算	平成22年度 実 績	増 減
<b>収入の部</b>			
学生生徒等納付金収入	3,797	3,745	52
手数料収入	127	118	9
寄付金収入	24	52	△ 27
補助金収入	820	565	256
資産運用収入	87	108	△ 22
資産売却収入	204	1,344	△ 1,140
事業収入	2	3	△ 0
雑収入	126	131	△ 5
借入金等収入	2	501	△ 499
前受金収入	861	705	155
その他の収入	771	772	△ 0
資金収入調整勘定	△ 1,026	△ 1,042	15
当年度資金収入合計	5,796	7,001	△ 1,205
前年度繰越支払資金	2,652	2,156	497
収入の部合計	8,448	9,156	△ 708
<b>支出の部</b>			
人件費支出	2,778	2,747	31
教育研究経費支出	906	878	28
管理経費支出	379	347	32
借入金等利息支出	44	40	5
借入金等返済支出	250	250	△ 0
施設関係支出	1	707	△ 706
設備関係支出	210	149	61
資産運用支出	458	308	149
その他の支出	640	1,629	△ 989
資金支出調整勘定	△ 365	△ 551	186
当年度資金支出合計	5,300	6,504	△ 1,204
次年度繰越支払資金	3,148	2,652	496
支出の部合計	8,448	9,156	△ 708